

被災建築物応急危険度判定 年間平時業務表

被災建築物応急危険度判定の業務は、これまで構造担当が全ての準備を行って来たが、実際の震災の際は建築指導課全体で対応する業務であることから、平時においても全員が常に本業務に関わり、各班に関わる業務を分担して行うこととした。

	業務内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体（建築指導課）	1 三鷹市災害対策本部運営・防災関係機関連携訓練へ参加（隔年）												
	2 三鷹市被災建築物応急危険度判定士連絡会（講習・訓練）の開催（判定員日よりと隔年）												
	※3 被災建築物応急危険度判定に係る事務研修会（建築指導課内）の開催												
	4 異動職員及び新任職員のコーディネーター講習・判定士講習の受講						コーディネーター	判定士		判定士			
判定計画班（建築安全監察係） + 判定コーディネーター（構造担当）	5 東京都被災建築物応急危険度判定連絡訓練（都⇄市）へ参加												
	6 東京都被災建築物応急危険度判定行政連絡会へ出席												
	7 （判定コーディネーター講習受講←判定計画班訓練を兼ねる）						コーディネーター						
	8 判定制度PR HP等（随時）												
判定支援班（審査係）	9 三鷹市被災建築物応急危険度判定員だよりの作成（判定士連絡会と隔年）												
	10 応急危険度判定マニュアル更新（人事異動による様式1の更新等）												
	11 判定士名簿の更新（都から年2回送付される最新名簿を整理する）												
後方支援班（監理係）	12 判定士、判定コーディネーター講習庁内調整												
	13 判定士募集（広報みたか・HP）												
	14 三鷹市被災建築物応急危険度判定員だよりの送付（判定士連絡会と隔年）												
後方支援班（監理係）	15 判定資機材の確認・更新												
	16 調査区域図の更新・差し替え（3年に一度）現状は令和3年度版												
	17 補償制度手続きの習得												

適宜

※被災建築物応急危険度判定に係る事務研修会（建築指導課内）とは
役割・行動等を年に一度確認するために、各班からの報告の場としたい
（想定報告内容（例））

- 判定計画班
 - ・判定士連絡会の開催調整
 - ・東京都被災建築物応急危険度判定行政連絡会の報告（必要な事項がある場合）
 - ・マニュアル更新の報告
- 判定支援班
 - ・判定士数及びコーディネーター数の状況報告
- 後方支援班
 - ・資機材管理更新状況の報告
 - ・調査区域図更新の報告

参考資料2

被害想定と必要判定士数

参考資料 3

令和4年10月20日

首都直下地震における三鷹市の被害想定

※首都直下地震等による東京の被害想定報告書(R4.5.25)を基に被害想定を算出

	都心南部直下地震	多摩東部直下地震	大正関東地震	立川断層帯地震
全壊棟数	538	793	118	57
半壊棟数	2,398	2,580	1,138	641
計	2,936	3,373	1,256	698

(全壊+半壊)棟数 = (危険【赤】+要注意【黄】)棟数 と仮定する。

また、過去の応急危険度判定活動から、調査済【緑】の割合は 40~70%であるので、三鷹市の判定対象総数を 調査済【緑】の割合 55%と想定して試算したものを採用する。

調査済【緑】 の結果割合	判定対象総数			
	都心南部直下地震	多摩東部直下地震	大正関東地震	立川断層帯地震
40%	4,900	5,630	2,100	1,170
45%	5,340	6,140	2,290	1,270
50%	5,880	6,750	2,520	1,400
55%	6,530	7,500	2,800	1,560
60%	7,340	8,440	3,140	1,750
65%	8,390	9,640	3,590	2,000
70%	9,790	11,250	4,190	2,330

◆必要判定士人数（多摩東部直下地震）

[判定対象総数 ÷ 判定実施期間 ÷ 1チームの1日当たりの判定棟数 × 1チーム]

$$7,500(\text{棟}) \div 9(\text{日}) \div 20(\text{棟/チーム}) \times 2(\text{人/チーム}) = 84(\text{人/日})$$

◆推定応援判定士必要数(実人員)の算定について

地元判定員数(実働可能数) は、登録者数の1~2割程度で推定

$$163(\text{人}) \times 0.15 \doteq 24(\text{人})$$

判定士の稼働日数を連続して3日間とする。

震災後	応援必要数(実人員)	地元判定員数
1日目	支援要請	参集要請
2~4日目	60人	24人
5~7日目	84人	0人
8~10日目	84人	0人
計	228人	24人
合計	252人	

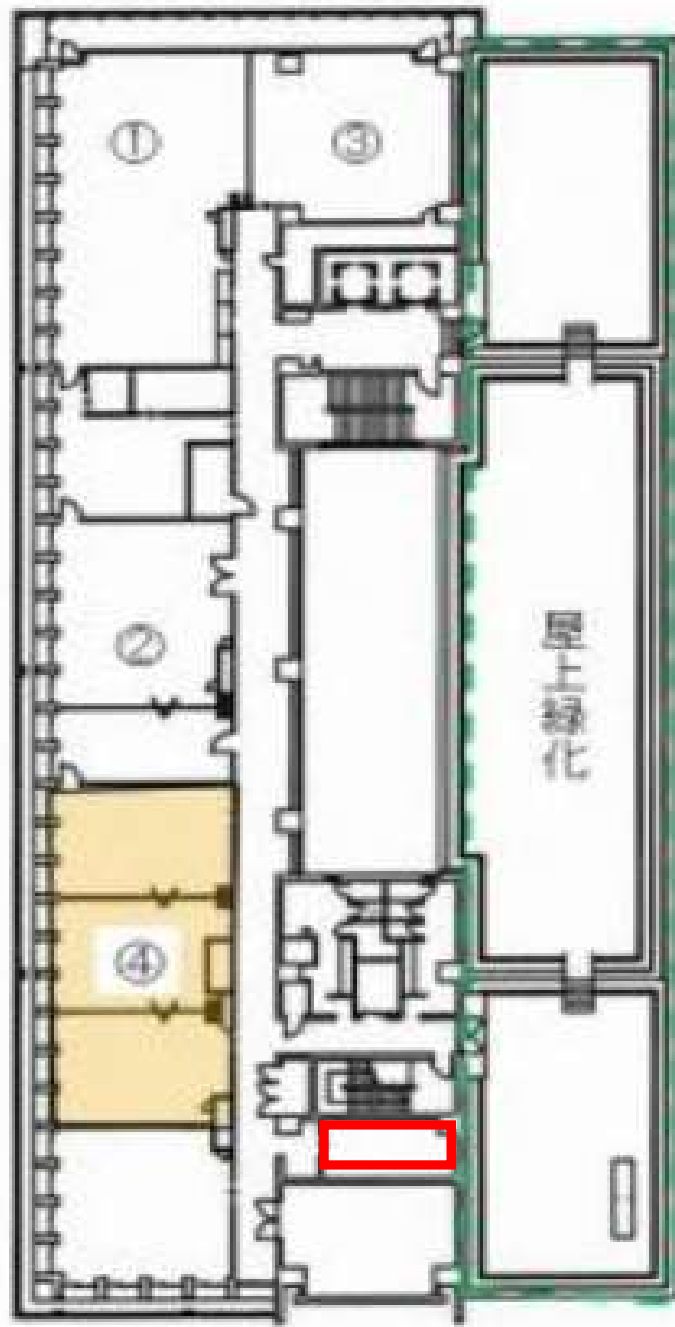
判定資器材

参考資料 4

被災建築物応急危険度判定資器材に関する備蓄状況（三鷹市 令和4年度）

機 材 名 称	個数	セット数 (R4.5.11)	備考
1 判定調査票の概ねの枚数（枚）	14,210	56	木造：11,000 S造：1,160 RC造：2,050
2 判定ステッカーの概ねの枚数（枚）	16,450	56	赤(危険)：2,300 黄(要注意)：5,050 緑(調査済)：9,100
3 ヘルメット用のシール	(180)		
4 下げ振り	60	56	
下げ振り（先端）	60	56	
5 コンベックス	60	56	
6 クラックスケール	60	56	
7 バインダー	84	56	
8 腕章	165	112	
9 ガムテープ	83	56	
10 ハンマー（打診棒）	25		不要
11 判定マニュアル	0		
12 調査区域図	各1部		令和3年度版（3年ごとに更新）
13 応急危険度判定チラシ		56	
14 ヘルメット	94		使用期限：2026.6
15 リュックサック	59	56	
16 雨具	100		
17 ペンライト	60	56	
18 立入禁止テープ	90	56	
19 双眼鏡	60	56	
20 水電池（単3×3本）	60	56	使用期限：2036年
21 コンパス(方位磁石)	61	56	
22 油性マーカー	120	112	
23 シャープペンシル	208	112	
24 マスク	186	112	
25 ホイッスル	241	112	
26 軍手	156	112	
27 名札入れ	175	112	
28 紙帽子	100		
29 ベルト	60	56	
30 腰袋	60	56	
31 はさみ	60	56	
32 被災建築物応急危険度判定（リーフレット）<参考27>	1,120	56	30枚/セット
33 被災度区分判定のお願い（リーフレット）<参考29>	560	56	10枚/セット
34 避難所案内図（三鷹市防災マップ）<参考28>	560	56	20枚/セット

※資器材備蓄場所は元気創造プラザ5階倉庫（裏面参照）



- ① 防災課
- ② 災害対策本部室
- ③ 消防団本部室
- ④ 学習室

資機材保管場所
 ※入口鍵は防災課が管理



元気創造プラザ5階案内図